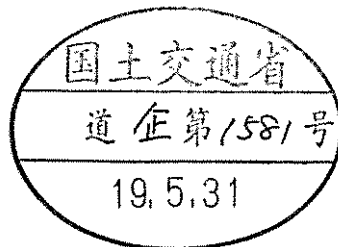


国土交通省道路局長様



平成19年5月2日

高知県高岡郡日高村
村長 中野益隆



道路整備中期計画についての地方からの意見

道路整備は首都を始め大都市から整備を始め、まずは大動脈を完成させることから順次取り組んできたものと思います。その整備の進捗状況は、首都や大都市は完了されたといわれますが、その整備の末端は未だ地方まで届いておりません。四国8の字ルートばかりです。整備を待ちわび、いよいよ地方の道路整備の順番が来たと思ったとたん、道路特定財源は一般財源化などとはとんでもないこと、それは、地方へまで道路整備が行き届いた時点で考えることで、今は、遅れた地方の道路整備に重点配分し、地方や僻地の格差是正にこそ力を注ぐべきと考えます。

地方とは、東京への時間が掛かるところを言うとは私は思っております。東京へ、あるいは大都市へ、また、県都へ短時間で行くことができるようにすることこそが、格差社会を解消する道筋です。

又、地方は、幹線道路ができたとしても、幹線道路へ行くまでの道のりも大変ですし、その道路整備費の捻出もままならない自治体が地方に集中しております。助かる命も救えない地方の道路整備の状況にも目を向けていただき、道路整備には、財政力に応じた補助率や交付税措置が行われることを強く求めるものでございます。

以上のことを強く要望し意見とさせていただきます。

なお、以下は、上記を要約したものです。よろしく願いいたします。

記

1. 道路特定財源は、道路財源として納税者も納得し定着したものです道路整備が地方へ行き渡るまでは道路財源とすべきと考えます。
2. 幹線(8の字や国道)を南海地震対策や台風等での通行規制を解消、命を守る道路として集中投資により早急に整備をお願いいたします。
3. 県が管理する国道や県道は元より市町村道整備も高知県は遅れておりますし、三位一体改革以降、改修工事に急ブレーキが掛かっています。財政力に応じた補助率や交付税措置により人の住むところには全国等しく道路整備が進む(追いつく)仕組みづくりをお願いいたします。